

今年 5 月に開かれた地球惑星科学連合大会に、国際セッション「地球磁場研究の新展開：ダイナモ、古地磁気、岩石磁気」を提案しました。英語のセッション名” Perspectives of Geomagnetism: Geodynamo, Paleomagnetism and Rock Magnetism - tribute to Prof. Masaru Kono” に示されているように、河野先生のご退官を記念したのですが、さらに、その機会を利用して海外の第一線の研究者を集め、日本の研究者、特に若手との交流の機会を設けること、日本で行われているこの分野の研究の進展を世界にアピールすることを目的としました。実際、最近日本で改良・発展させた低温消磁二回加熱ショー法による古地磁気強度測定や、若手の層が比較的厚いダイナモ研究などをアピールできたと思います。また、Prof. John Tarduno や Prof. Andrew Roberts のような論客による迫力ある（強引な？）講演や議論は、若手の刺激になったものと思います。コンピーナーとしては、国際セッションをやるとは言ったものの、講演が集まらずショボいセッションにしかならなかったらどうしよう、という心配もしました。講演申し込みの出足は悪く、はらはらしましたが、いつものように？メ切り間際にどっと申し込みがあり、結果としてはコンピーナーの予想をはるかに上回わり、口頭発表 39 件（うち海外から 12 件）、ポスター発表 23 件の、2 日半にわたるセッションを盛況に行うことができました（うち半日は「物理・天文・地球惑星科学合同プラズマ科学シンポジウム」との共催のダイナモ・セッション）。定員 200 名の会場は広すぎはしないかと思いましたが、古地磁気分野以外の方々にも関心を持っていただけたようで、ちょうどよい入りでした。海外の参加者からは、よいセッションだったというお褒めの言葉もいただきました。初日の夜にはレセプションが開かれ、交流を深めることができました。この国際セッションを核にした EPS 誌の特集号も企画され、来年春の刊行を目指して現在論文の査読が行われています。

[セッションコンピーナ：山崎俊嗣（産業技術総合研究所）]

